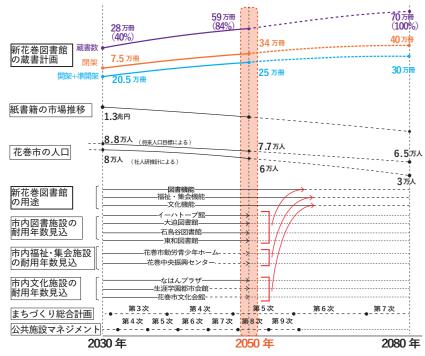
## これからの花巻の50年をどう考えるか

蔵書数に応じて使い方を変えられる「アルコーブ」と「まどテラス」

新花巻図書館の基本計画には、**今後50年の蔵書数目標が70万冊**と記載され 竣工時に70万冊分の書架を全て用意することは ています。また新花巻図書館は、大迫図書館、石鳥谷図書館、東和図書館を束ね 50 年間、何にも使えない空間を抱えることにな る本館としての役割を担いますが、これらとの関係は既存図書館の**耐用年数**ります。そのため、将来所蔵されるはずのスペー や人口動態によっても変化していくでしょう。3次、4次花巻市まちづくり スをまずは専門書が配架される準開架や、研究 **総合計画**が発表される 2050年までに、図書館のあり方も再検討されることが予 スペース、テーマ配架等に利用される小さな部 想されます。いま国内の公共建築は、このような長期的な視野とその使われ方の関屋の集合「アルコーブ」としてつくり、閉架 係が問われています。

そこで私たちはまず、新しい図書館が今後50年間、**どのように使われていく**します。そして一旦閉架書架は34万冊分の収納 **⊐**ブ べきか、また建築がどのような未来を見据えることができるのかを考えるこ 量にとどめ、2050年に図書館のあり方を問う契 とから始めたいと思います。そしてオープン後20年の2050年を目処に蔵書機とすることを提案します。また、開館時には 計画や使い方を再考する時期と捉え、おそらく変わることのない人と本との 本棚に対して本が少ない状態となりますが、空 **親密な関係と、変わっていくであろう社会的要請**に対して、**5つの論点**から本計 きスペースを展示やホワイトボード、アーカイ 画を提案します。



図書館の主な役割である**保存、収集、編集などの機能は時代が経っても変化** しないと考えられる一方、花巻市において、周辺の公共施設の用途や求め られるものが変わるという不確定な未来を視野に入れた柔軟な計画が必要

を変化させ続ける図書館だと言えるで しょう。宮沢賢治の言葉に「永久の **未完成これ完成である**」という言葉 があります。花巻市の図書館も、この ように社会変化や要請に応じて、常に 変化し続ける図書館がふさわしいので







開架と現状・将来計画のバッファーとして計画 ブ棚など他の用途に活用できるよう、フレキシ ビリティのある本棚を提案します。



## 屋内化可能な「まどテラス」

各フロアに半屋外の「まどテラス」を複数 **まどテラス** 計画します。将来建具を設置すれば屋内化 することが可能で、市民活動のスペースを 確保しながら蔵書数の増加に対応すること ができます。



2080年

屋内化

40万冊

7万册

ケーマ配架

.......

2030年 2050年

まどテラス

5万册

子ども 学習

展示 工作

研究 福祉

テーマ配架

まどテラス

本棚余裕

4.5 万册

0.5 万册

子ども 学習

展示 工作

研究 福祉

本棚余裕

2080年

屋内化

? 万冊

? 万册

子ども 学習

展示 工作

研究 福祉

(テーマ配架)

蔵書数見直しの

## **▲** 本と出会い、読み、学ぶ、経験の普遍的なスケールの「コーナー」

開架

私たちが一人で本を読む時の空間、複数人で勉強す る時の広さ、本を探す時の本棚の間隔や高さ、といっ た身体にまつわる基本的な経験は今後も変わらない

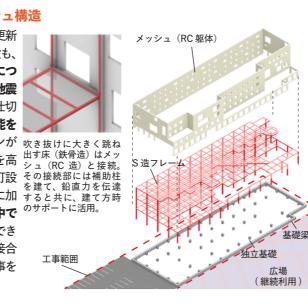
でしょう。そのため、本と人を結ぶ家 **具デザインは特に重要**です。利用者が 自由に居場所を選択し、各々の時間を 過ごせる 「**コーナー**」を家具も含めて 考え、静かに本を読んだり、研究した り、ただ階下のひとを眺めたりするこ 閉架 とができる空間をつくります。コー ナーは各階のフロアテーマや利用に合 わせて多様な環境をつくります。



#### <イ 公共建築としての持続可能性 >

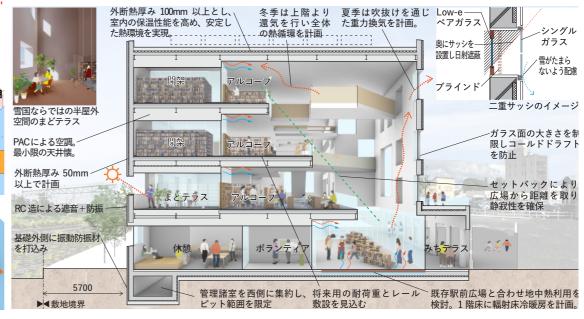
#### 80年の耐用年数を持つ堅牢なメッシュ構造

花巻市文化会館は開館50年を迎え、さらに設備更新 によりさらに30年維持すると聞きました。本施設も、 シンプルかつ堅牢な RC 造で外郭をメッシュ状につ くり、線路からの振動や騒音、漏水を防ぎつつ地震 力を担う計画とします。一方内部は、将来の間仕切 りの変更や家具の更新ができるように、耐震性能を **担わない鉄骨造**でつくります。軽量かつ長スパンが 可能で、設計中のプランニングや配架の自由度を高 めます。基礎梁範囲を外周に限定することで、打設 その接続部には補助柱 量および掘削量の削減(=イニシャルコスト減)に加 すると共に、建て方時 え、南側の駐車場をヤードとして利用し、**工事中で** も様々なイベントを広場で継続して行うことができ ます。工期の前半が冬季にあたりますが、ピン接合 による鉄骨工事を先行させることで滞りなく工事を 進めることが可能です。



#### <イ 公共建築としての持続可能性 > 省エネルギー性と更新性を備えた環境計画

階高を抑えたコンパクトな 4 階建てとし、空調負荷が大きい窓サイズと屋根面積を抑制することで、 **外皮面積を最小限に抑えます**。各階にはパッケージエアコン(PAC)を設置し、省スペース化と更新 性を確保します。1 階は**床輻射冷暖房**を検討し、吹抜けの冬期の暖房立ち上がりを安定させ、冷気が溜まる最下階 を足元から暖めつつ、夏期においても居住域を効率的に空調します。外壁は適切な断熱厚さを考慮した外断熱とし、 熱損失を最小限に抑えます。また、外壁開口部は全て**方位によって大きさや仕様を変えたぽポツ窓**とし、外壁の厚 みも活用して熱環境を調整でき、大きなコールドドラフトを生じさせない仕様とします。例えば、北面では外付け の日射取得型、南面では内付けの日射遮蔽型の Low-e ペアガラスとするなどを検討します。特に立面の大きい東西 面については、夏期の夕方の冷房負荷増大を抑えるため、窓を多く必要としない諸室を西側に配置し、開口部のサ イズや二重ガラス内部へのブラインド設置などを検討します。これらの方法により、ZEB Ready の確実な実現を 図るとともに、屋上及び駐車場等への太陽光発電パネル設置により Nearly ZEB 以上も視野に入れて検討します。



## 歴史を継承し文化を育む、関わり合う広場計画と立面計画

駅前多目的広場に面して半外部の「**みちテラス**」を南北に通し、**駅から駐車場までを結びます**。イベント時の休憩 や観覧席、電車の待合としても利用でき、その上部の「**そらテラス**」と共に、**立体的に活動が現れるファサード**を 広場に向けてつくります。また、内部のセットバックする空間構成は、**花巻の河岸段丘とも呼応**することで、坂本 町から上り下りする街の体験と連動する図書館を目指します。一方、このセットバックは、駅前多目的広場の**イベ** 

**ント時の喧騒から一定の静かさを保ちます**。また建物全体の ボリュームは、なはんプラザのスケールに合わせつつ、大小 内外の無数の窓に、図書館で過ごす人々の様子が現れる風景 をつくりだします。









## これからの花巻の50年のための計画

#### 4階建ての人員配置について

これからの図書館サービスでは、従来の固定されたレ ファレンスカウンターだけでなく、**スタッフが利用者** へ積極的に出向いて接点を増やす巡回型の運用がふさ わしいと考えます。またこの運用方法が4層の図書館 に有効か検証するために、1次審査以降同規模程度の複 数の図書館に実地見学およびヒアリングを行いまし た。巡回型により「**問い合わせの少ない文学などを配** 架することでレファレンスカウンターを設けないフロ アをつくる|「吹抜けによる管理上の見通しを確保す る」といった知見が得られ、空間にゆとりをもつ4層 の計画の可能性が十分あると判断しました。ただし、4 層案を確定とするのではなく、**運用の柔軟性を考慮し、** 4 階を閉架書庫やバックヤードのみとして市民が立ち **入らないフロアをつくる代替案も用意**しています。こ れは空間的な魅力を極力損なわないように配慮した提 案です。最終的な4階の方針については、今後、皆様 とのワークショップで決定していきたいと考えます。



限られた敷地内で見通しがよく、また将来的な可変性と 管理動線のコンパクトさを考慮すると 4 層であることに は優位性があります(もちろん3層の可能性もあります)。 人員配置を減らすための工夫はフロアテーマの設定や構 成によって可能であり、現段階では 4層案でプランニン グしました。

### 4階に利用者が訪れる場合

4F 閉架 3F 閉架 ★ ☆開架、 1F 事務 ★

○大きな吹抜けによる開放感

○フロアテーマの個性の出しやすさ

○賑やかさと静けさのグラデーションのつくりやすさ

○みち・そら・まどテラスの計画しやすさ

### 4階を閉架書庫とバックヤードのみとする場合

4F 閉架 1F 事務 ★

○大きな吹抜けによる開放感

△フロアテーマの個性の出しやすさ

△賑やかさと静けさのグラデーションのつくりやすさ △みち・そら・まどテラスの計画しやすさ

3F 閉架 2F 閉架 ☆ 開架 1F 事務 ★

△大きな吹抜けによる盟放感 △フロアテーマの個性の出しやすさ

上賑やかさと静けさのグラデーションのつくりやすさ △みち・そら・まどテラスの計画しやすさ

★ :レファレンスカウンター設置 ☆:ミニカウンター設置



## 平面イメージ(4階に利用者が訪れる場合)

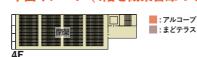








### 平面イメージ (4階を閉架書庫のみの代替案)









### 土間テラスの多目的利用

半屋外スペースの土間テラス は、本の搬出入に加え、イベ ント時の準備や出店の拡張ズ ペースなど多目的に利用可能 です。



どが融合する有機的な思想体 系を築いたように、花巻市に は豊かな知の土壌がありま す。この土壌をフロアテーマ に設定し、それらが循環する 創造的な図書館を目指しま

企画展示や市民貸出スペース、 工作スペースなど図書以外の 機能を入れたり、畳やカーペッ クトな動線とし、各階 トといった仕様を様々に変更 は作業スペースとカウ ンターを設け、スタッ フの働きやすさに配慮 します。

10進分類に捉われない、

オリジナルなテーマ配

架とすることで街の特 性や市民ニーズに合わ

せた多様な学びの場を

開架閲覧エリアと

バックヤードの両方

からアクセスできる

市民活動スペース。

間仕切りを開ければ

一体的なワーク

ショップも可能です。

線路をまどテラス

お祭り倉庫 倉庫 防災倉庫 芝室 海火 ボンブ 更衣 清掃 お祭り倉庫

車寄せ

なはんプラザ:

会議室やスタジオ等、市民活動を 支える機能と図書館との棲み分け をしながら相乗効果を狙います。

レクチャー

つくります。



循環する図書館

宮沢賢治が農や芸術、宇宙な

多様な活動を担うアルコーブ

#### 閉架が見えるアルコーブ

一部アルコーブと閉架書庫は ガラス越しに見えることを検 討します。スタッフは閉架か ら直接出入りが可能です。



#### 拡張可能な閉架書庫

将来、閉架書架を増設する際 は、アルコーブに拡張できま す。そのためアルコーブの床 は、耐荷重やレール敷設を予 め見込んだ計画とします。



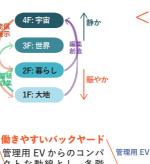
#### 利用者からも感じられる バックヤード

バックヤードとの境界壁には 一部にガラス窓を設けること で、利用者から図書館の運営 などを見ることができ、身近 に感じられる図書館を目指し ます。



東西を貫通する土間テ でブックモビルの搬出入を 行い、ここからブックモビ ル書庫や地域配本室、作業 室、事務室へ無駄のない動 線が続きます。





#### 立体的に見える様々な活動 $\leq$ 2030-50年時点の計画として>読書や調べ物、おしゃべり、

4F: 宇宙

3F: 世界

そらテラス

1F: 大地

駐輪場20台

こどもテラス

駅前広場

を見下

通用口

ギャラリ・

救護 授乳

して立体的に見えます。

### 安旦がつくる小さなコーナー それぞれが居場所を見つけ 快適に過ごせるための家具



#### 安心感のある「まどテラス

各階に屋根付きの屋外テラス を設けます。囲まれた安心感 があり、街を見ながら読書や おしゃべり、飲食など、サー ドプレイスとしての図書館の 幅をひろげます。



吹抜けから展示の雰囲気を感 じることができそれと関連さ せたテーマ配架も可能です。



### 視線が届く位置にメインカ ウンターを配置します。本 の貸出、レファレンス、貸 室対応など一括して管理で



# 市民向けの棚貸しスペースを

検討します。「みちテラス」か らも見え、掲示板や観光案内 と合わせて、官民協働による 街の情報発信を担います。



可動間仕切りを開けて一体的 に利用可能です。イベント時 は駅前多目的広場と連続で き、さらに吹抜けを介して上 階と断面的に繋がります。













